

初歩的な認識と知覚にかかわる一連の英語動詞群分析

ITO, Koichi / 伊藤, 幸一

(出版者 / Publisher)

法政大学教養部

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政大学教養部紀要. 外国語学・外国文学編 / 法政大学教養部紀要. 外国語学・外国文学編

(巻 / Volume)

103

(開始ページ / Start Page)

123

(終了ページ / End Page)

136

(発行年 / Year)

1998-02

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00005457>

初歩的な認識と知覚にかかわる 一連の英語動詞群分析

伊 藤 幸 一

はじめに

「KNOW 及び THINK に集束する意味場の構造分析」では、『知識』と『思考』とでも呼べる意味場の解明に努め、挟まれる様にして、『認識』にも言及、幼児が知識を整理して行く学習の行程を考察した。

何かの存在が分かっただけでも、知識を得たことになるが、それらを整理・整頓することで、理性が、思考が発達、それと共に、優しさとか、思い遣りとか、の感情も芽生えてくるとも指摘した。一般的に、感情は知識量に左右され、同時に機能し、影響しあって豊かになって行くことは言うまでもない。その根底に認識があり、外界とは知覚でつながる。

そして、その知覚の、特に視覚の意義と、更に、言語の介入を考えざるを得ないとして『まとめ』ている。目の前の物と名称を結びつけることが、その物を理解する出発点であり、言語の習得が知識の修得となり、より複雑な思考は、その言語による。つまり、言語は人間たる由縁であり、言語的・中間世界の存在は、ときに、知覚から行動に至るまで、大きな影響力を持つのである。

そこで、目に触れる物、全てを知覚するのではなく、目下の欲求によるといわれるが、感性はもとより、総括的には、認識に基づく言語的・中間世界によって選択される可能性がある。本稿では、存在する物ではなくて、その状態を考察するが、認識的意味論にとって意義があることは言うまでもない⁽¹⁾。

まずは、空間における物の『存在』と、その状態を、次に、時間における存在、つまり『変化』を、更には、複数間における存在、つまり『関係』を考察し、時間に関して『まとめ』る。そして、自らの存在や変化や関係を意味する自動詞、あるいは自律詞に、出来れば、むしろ言及したい⁽²⁾。

「動くことを連想させる英語動詞群の意味分析」で、うねった川や起伏のある地面、更に、人間の身体を曲げた姿勢等は、別途に扱うべきであるとしたが、ここでは導入を果たす。また「動かすこと及び物理的变化を連想させる英語動詞群の意味分析」でも別途とした方が良かった液体や気体には、光などと共に言及せざるを得ない。更に、「五感他の精神生理的機能を連想させる英語動詞群の意味分析」で、触覚には、具体的な触覚を引き起こす意の表現があったとしたが、結果として、視覚に関して、対応する表現を示せるのだろうか¹⁹⁾。

存 在

物理的に、ある物が EXIST 存在するということは、ある空間を、ある時間、OCCUPY 占めることである。感知出来ない程、早く動いていても、小さくても良い。しかし、ここでは、誰の目にも明らかな、大きくて動かない物から考えて行く。

《有 形》我らが地球の表面は海と陸が覆い、否、海が陸を囲んでいる。一般的には SURROUND が適用されるが、ENVIRON と共に環境を連想させる。GIRD-(LE) は帯を、RING は輪を、ENCIRCLE は円を連想させ、更に、円を描くコンパス COMPASS も挙げておこう。SKIRT はスカートの様にてである。言い換えるなら、境界を接することにもなり、縁や淵を連想させる BORDER、VERGE が適用され得る。BOUND は境界を強調する。接触する TOUCH や、隣接する ADJOIN、ABUT も加えられ得る。

海には大海原が、陸には、樹木や草、あるいは砂や礫、雪や氷の原が広がり伸びる。EXTEND、STRETCH は線的な物にも適用される。同様に SWEEP は帚で一掃した様にてである。SPREAD は平面的に覆う意で、EXPAND は膨張する意である²⁰⁾。REACH は、どこまで達するか、を考えさせる。海まで達した陸は、所々で、岬として突き出て、SHOOTS、PUSH が適用される。

動・植物が広がるのは RANGE で、繁茂するのは THRIVE、FLOURISH であり、ついでながら、増殖するのは PROLIFERATE である。虫が群がるのは SWARM、CRAWL、魚群をなすのは SCHOOL、SHOAL、哺乳動物が群がるのは HERD、特に狐をする狼などは PACK、襲おうと群がるのは MOB、襲われそうなのは FLOCK、更に、害虫、害獣、雑草は OVERRUN で、CLUSTER は房を連想させる。ついでながら、人が群がるのは CROWD、THRONG で、

結果、集めるのは HUDDLE, MILL, 詰まっているのは JAM, 一般的に、集まるのは GROUP である。沢山で富むのは ABOUND, 特に魚は TEEM である。満ちるのは FILL, 溢れる程なら OVERFLOW である。

それも、集中するのは CENTER, CENTRALIZE, 更には CONVERGE, CONCENTRATE である。点在するのは、点を打つ DOT, 飾り釘を打つ STUD である。撒き散らす STREW は一面を覆うことにもなるが、散らばっているのは SCATTER である。寶石など散りばめるのは BESET, BESPANGLE, そして、文字通りの JEWEL も挙げておこう。

これらの地下には、集中的に、あるいは点的に資源が眠る。下に横たわるのは UNDERLIE, 上に広がるのは OVERLIE であるが、共に LIE が適用され得る。そして、大地の成分は幾重にも積み重なり、層をなす STRATIFY が適用される。そのまま地表に剥き出しになる場合があり、荒涼たる大地が大口を開けているのは YAWN, GAPE である。

逆に、隆起するのは SWELL, ならぬに盛り上がるのは HUMP であろう。どこかの上に聳えるのは TOWER で、塔を連想させる。山などが高く聳えるのは SOAR, RISE, それも支配しているかの如くであると DOMINATE が適用される⁶⁵。尖っていて聳えるのは PEAK, そのことで、指していることにもなるのが POINT である。横からの姿は、先細になる TAPER で、斜面は後退する RECEDE である。ときに、斜面が前進、蛆の様に突き出ていると BEETLE, PROJECT, PROTRUDE だけでなく、覆い被さる (OVER-)HANG が適用される。全体的姿が外に開くのは SPLAY で、台地や高原に当てはまる。

山は、単独で存在することは稀で、集まって、あるいは、まばらに連なる。ALIGN, LINE は直線を、QUEUE は列を連想させるが、形を成すということでは FORM である。連なって伸びる RANGE は山脈をも意味する。だらだらと連なるのは STRAGGLE である。TREND は、その連なりが、ある方向に向かう意である。山にも正面がある様で⁶⁶、向いているのは LOOK, FACE, FRONT, 更に、場所に通じる意を持つ GIVE, OPEN も適用され得る。ついでながら、後ろにあるのは BACK である。

面が傾斜するのは SLOPE, SLANT であり、緩やかには SHELVE, 下には PITCH である。下り坂になるのは DESCEND, FALL, DIP で、上り坂になるのは ASCEND, RISE, CLIMB である。そして、山と山に挟まれた斜面は下方に徐々に緩やかになり、扇形に広がる FAN が適用されるが、平野へとつながっ

て行く。そこにも、なだらかな起伏があり、収穫期の麦畑が風に波打つ様に、瞬間、類似、共に ROLL, UNDULATE が適用される。一方、山の稜線が波の様に連なる様は WAVE である。

《無形》¹⁾ 峡谷からの流れは、ここでは川となり、地形に合わせて、うねる。水が流れる RUN も適用されるが、曲がりくねって進むのは MEANDER で、SNAKE, WEAVE, RAMBLE も挙げられる。大凡、巻きつく意の WIND, COIL, TWIST, CURL も適用され得る。湾曲する、のは CROOK, ROUND, CURVE である。これらはまた、山や田舎の一本道にも適用されるが、計画的に作られた直線的な街路は別で、曲がるのも、屈曲する BEND, VEER である。ときに、放射状になり、RADIATE が適用される。道路が続いていることと、既述した大地が広がることとは、ほぼ同様に扱われる。

ついでながら、つる草の生える様にも、川や道の表現が適用され得る。更に CREEP, CRAWL が、TRAIL に CLIMB も適用される。枝と同様に、茂るのは BUSH, SPRAWL であり、先端部が、しっかり、つるんでいなければ、髪の毛や旗のようになるか。旗は風に吹かれ、ときにピシッと WHIP, チラチラと FLICKER の他、髪の毛と同様に垂れ下がり FALL, FLOW が、そして、戦ぎ、なびき、FLY, STREAM が適用される。

陸と海は空とも接するが、遠くの地平線、水平線で知ることになる。天候によって、ときに、その線は溶け MERGE が、あるいは、雲が土手をなし BANK が適用される。更に、浮き雲が山を覆うか。覆う、にしても TOP は頂上を、CAP は帽子を連想させるが、それが、雪である可能性もある。

霧や闇も含めて、辺り一面を覆うことには、顔をヴェールでの VEIL, マスクでの MASK, 身体を衣服での INVEST, CLOTHE, マントでの MANTLE, CLOAK, 更に、総括的に WRAP が適用され得る。一般的には COVER であるが、隠す HIDE, それも意図的な CONCEAL の意をも持つ。同じ覆うのでも、掛け布などでの DRAPE は飾る意である。

一方、海岸は、波が打ち寄せて覆う。沖で大きく、うねるのは SWELL, それが押し寄せるのが SURGE, 逆巻くのが ROLL, 砕けるのは BREAK である。漣が立つのは RIPPLE, RUFFLE である。一般的には WAVE が適用されるが、大波を立てる BILLOW は、その激しさ故に、渦巻く意も持つ。その渦を巻くのは WHIRL, SWIRL, EDDY である。砕けた波は泡立ち、FOAM, FROTH, SPUME が適用されるが、一般的には BUBBLE であり、ひとつの泡も意味す

る。ついでながら LATHER は、特に石鹸に関してである。CHURN は泡立つ、渦巻く、の両意を持つ。

波立つ、渦巻く、泡立つ水面は別、鏡の様な水面では、良く分かること、光を反射して物を映す。REFLECT であるが、REVERBERATE と共に、音にも適用される。それでも水中に入った光は屈折する。DEFLECT である。大凡、物は乱反射して目に映ずるが、ここでは、明るい所でも目立つ、強く反射する光も含めて、光を発することを考えよう。

太陽などは RADIATE であるが、BEAM は、むしろ、その光束を連想させ、SHINE は、その輝きで目立つ意を持つ。光を放つ、ということでは SHOOT、SHED である。ピカッ、ギラギラと強く光るのは FLASH、GLARE で、キラッとは GLANCE と金属的な GLINT か。キラキラは、星の TWINKLE、火花の SPARK(-LE)、金属的な GLITTER、更に GLISTEN であろう。チラチラは、炎でもあり得る FLICKER に、GLEAM、GLIMMER、SHIMMER である。GLOW は、夕日など燃える様に、且つ、白熱してギラギラでもある。ついでながら、炎も含めて、チラチラは PLAY でもある。

光は燃える炎をも暗示し、LIGHT は、火が点き、輝き、物を照らし、明るくする意を持つ。ついでながら、艶が出るのは POLISH である。そして、炎は煙を伴うこともある。煙は、否、ときに炎も、既述した、つる草の如く動き、同様な表現が適用されるが、更に ROLL、WREATH 也も加えておこう。

光は明るく照らすだけでなく、陰影をも作り出す。夕日が西空を、覆うのは SUFFUSE、拡散するのは DIFFUSE であるが、その頃、影法師は、つる草の様に、伸び、這い、激しく動く。月明かりでも屋根の上などの斜面では同じことが起きる。光と同様に陰を投じるのは CAST、落とすのは FALL である。陰影を作り、暗くするのは SHADE、SHADOW であるが、影がチラチラするのも FLICKER である。影絵遊びは楽しかろう。

変 化

地球は、太陽系の第 3 惑星として ROTATE・REVOLVE、静止などしていない。そして、表面を外皮、つまり地殻で (EN-)CRUST、その上に乗っている陸地は、僅かであれ、山と共に歪み、川の流れの様に、海岸線は変わる。

《循環》³⁸ 太陽が RISE、CLIMB / SET、SINK、で、毎日、朝が BREAK、

夜が FALL, 交互に現われるのは ALTERNATE である。潮も FLOW/EBB, 月も WAX/WANE, で、ときに、天体は蝕す ECLIPSE も起きる。RECUR は再び起きることから繰り返す意も持つが、季節が巡ることには ROTATE, ROLL が適用される。

その地球を包む大気が、気象を創り出す。多様化するのには DIVERSIFY である。恵みの雨も、雨期に入り、度を越して、風と共に荒れ狂うと、立木も根こぎになるか。UPROOT である。荒海の舟なら、のたうつ TOSS が適用される。ペンキや壁などが、はげ落ちるのは PEEL, 物が、はじけるのは SPRING, バラバラになるのは PART, 塀が崩れるのは BUCKLE である。総括的に、機能しなくなる程に壊れるのは BREAK で、舟なら難破する WRECK が適用される。家などが崩れるのは FALL, COLLAPSE である。

覆っていた物が持ち上げられた如く、雨が止むことにも LIFT は適用される。SUBSIDE は風雨なら静まり、洪水なら引き、地盤なら沈下することを意味する。橋なら撓み、道なら陥没するのは SAG で、元気をなくす意も持つ。風なら静まり、水なら染み込み、地盤や建物なら沈下するのは SINK であろう。水が染み込むのは PENETRATE, 拡散するのは PERMEATE, 地盤が緩むのは LOOSEN である。沈泥が流れを塞ぐのは SILT, 結果、淀むのは STAGNATE で、腐る意も持つ。

季節が変わって乾期に入っても、度を越して太陽が照り続けると早魃になる。温度や水位が上がるのは RISE, 下がるのは FALL であるが、ここでは、温度と水位は比例しない。貯水池などが空になるのは EMPTY, EVACUATE で、カラカラに干上がるのは PARCH である。更に、沈泥などが半固まりになるのは CLOT, 罅が入るのは CRACK, CHAP, 欠けるのは CHIP, ボロボロになるのは CRUMBLE, 粉々は SHIVER を挙げておこう。

汗が流れると、砂埃の為に、筋をつける STREAK, STRIPE, 更に、斑にする DAPPLE, MOTTLE が適用され得る。植物が、萎み、萎れるのは WILT, WITHER で、更に FADE も加えておこう。ところで、焦がし、焦げる SEAR, SCORCH も、この意を持つ。風が強くなり新鮮になるのは FRESHEN で、再び、貯水池は水が満ち REPLENISH が適用される。

雨期と乾期を持つ熱帯とは対照的な極寒の地では、寒期に入ると、流れさえも凍てつき、地面などがカチカチに凍るのは CRISP である。雪が降っても、強風が、吹き寄せ、吹き溜まるのは DRIFT, 土手の様に積重なるのは BANK,

しかし、低温の故に固まるのは、乾期の上にも適用され得る PACK, CAKE である。水道管などが破裂するのは RUPTURE である。

春が近づき、気候が緩むのは GIVE である。雪や氷が溶けて、熱帯の雨期の如く、ぬかるみを歩き、泥水を撥ねかすのは SLOP, SLOSH で、SQUASH は、その時の音を強調する。花が咲き乱れ、新緑の候となると、色が、音が、匂いが変わって行く。BEAUTIFY が適用されるか。何もかもが生き返り、活気づく。QUICKEN, LIVEN である。

【共通】 広い地域に渡って、今迄、述べた様な、ある気象が覆うのも SWEEP であり、雲、霧、夕闇などが立ち込めるのは BROOD である。その一定期間続いた天候が壊れるのは BREAK であるが、その前に、荒天が静まるのは CALM, LULL, STILL, QUIET で、程々に、を強調するのが MODERATE, EASE で、一時的には REMIT であろうか。SETTLE も適用されるが、埃なら収まり、液体や気体なら澄み、霧なら下に積もり、重い物は大地に嵌まり、その大地は沈下する。

下がる、のでも FALL は、勢いに当てはまり、太陽は沈み、雨は降り、水位、温度、嵐も下がり、大地は傾斜し、立っている物は倒れ、上から支えられていた物は垂れ、それぞれの元々を考えさせる。反対に、勢いを持つのが RISE で、太陽、煙、地面など、寝ていた物は立ち上がり、立っていた物は更に、であり、水位、温度、風雨、霧は、どうなるか、言うまでもない。

脹らむ SWELL は「ふやける」につながる。MACERATE であるが、瘦せる意も持つ。皺々になるということか。ならば、襲も意味する RUFFLE, RUCK を挙げておこう。CRUSH はハンカチを皺くちんにする意も持つ。収縮ということでは、亀が首を引っ込める RETRACT を挙げておく。

総括的に、増減を考えざるを得ない[※]。減少するのは DECREASE で、徐々に、であるが、DIMINISH には外力が働くか。LESSEN も、REDUCE も加えざるを得ない。低くは LOWER, 短くは SHORTEN, 小さくは DWINDLE, 狭くは NARROW, 薄く、細くは THIN, 弱くは WEAKEN, ABATE, AIL, 浅くは SHALLOW, ひ弱くは DEESCALATE であろうか。

増加するのは INCREASE で、掛け算を意味する MULTIPLY も挙げざるを得ないか。倍加するのは (RE-)DOUBLE である。高くは HEIGHTEN, 長くは LENGTHEN, ELONGATE, 広くは WIDEN, BROADEN, 大きくは ENLARGE, 厚く、太く、濃くは THICKEN, 強くは STRENGTHEN, TOUGHEN,

深くは DEEPEN, 強烈に激しくは INTENSIFY, 更に ESCALATE も加えておこう。

辺り一面が、夜になることも含めて、暗くなるのは BLACKEN, DARKEN, GRAY であるが、その原因を連想させる CLOUD, FOG も適用される。光景などが、ぼやける BLUR, 薄暗くなる DIM, 刃物などが鈍くなる BLUNT, 更に、広い意を持つ DULL につながって行く。具体的に、月が朧になるのは PALE である。対立するのは、明るくなる BRIGHTEN, LIGHTEN に加え、鋭く、鮮明になる SHARPEN を挙げても良いだろうか。

COLOR は一般的に着色する意であるが、対立する DISCOLOR は色褪せる意で、FADE につながって行く。太陽や風雨に晒すのは EXPOSE で、その結果であり得るが、その意を持ちつつ、漂白するのは BLEACH である。更に BLANCH も挙げておこう。その色を強調するのは WHITEN である。ついでながら、YELLOW は黄色になることで、黄ばむことも含み、SALLOW は、血色が悪いことである。

光沢が鈍る TARNISH は、汚れてか、それとも、金属であれば、錆びたのかもしれない。それなら RUST を挙げざるを得ない。鉄分が多いと、顔色にも適用される REDDEN である。腐食するのは CORRODE で、BITE も適用される。化学的には、酸化する OXIDIZE を挙げざるを得ない。

空気に触れて変質し、新鮮でなくなる STALE は、酒など、気が抜ける意を持つ。すえるのは SOUR, 広く、台なしになるのは SPOIL であるが、当然、腐る ROT の意も持つ。腐敗することでは PUTREFY, 腐食することも含めて FESTER, 更に DECAY も挙げておこう。DECOMPOSE は成分が分解することを強調する。

一方、有効に機能して、醸造するのは BREW, 発酵するのは FERMENT である。木材の使用に適する様に枯らし、枯れるのは SEASON であるが、広く、なれる、熟す意を持つ。動・植物の成熟も含め、熟成するのは RIPEN, MATURE であり、MELLOW は熟して豊かになることを強調する。味に関してなら SWEETEN が適用されるか。ついでながら、ワインなどに関して熟成する AGE は、殆ど空気に触れさせないで年月を経ることである。

総括的に、太陽、風雨に晒されることで、変色、風化するのは WEATHER である。浸食の他、腐食も意味するのが ERODE で、ENCROACH は侵略することから、海や川が浸食することに適用される。下を掘ることから、下の方

を浸食するのは UNDERMINE である。WASH も、大地を洗濯物扱い、洗濯し過ぎて摩滅させ、溝や穴を穿つことにも適用される。

凹型を作るのは RECESS, 穴を明けるのは PIT, HOLE, それも、横穴ならば CAVE, 削り貫くのは HOLLOW である。そして、岩などに、丸みをつけるのは ROUND, 滑らかにするのは SLICK, SMOOTH, 平らにするのは LEVEL, EVEN, FLATTEN であるが、その反対に、ザラザラにするのは COARSEN, GRANULATE で、更に ROUGHEN は凹凸までも含む。ギザギザにするのは JAG, SERRATE で、STEEPEN は峡谷を更に険しくする。

こんな気候・風土の中で、動・植物は適応して行く。融通性を以ては ACCOMMODATE, 柔軟には ADAPT, 工夫しては ADJUST である。慣れることを強調するのは ACCLIMATE で、NATURALIZE も加えておこう。これらは進化する EVOLVE につながって行くのだろうか。でも、それは、突然変異する MUTATE によるのであろう。

関 係

複数間に存在するのが、関係であるが、既に、今迄の既述の中にも、該当する表現が見つかる。ここでは二者間を、それも、両者が近づいて行って、どうなるか、を糸口を考えることにしよう⁽¹⁰⁾。

《位 置》 近づくのは APPROACH で、APPROXIMATE は、むしろ意味的接近であり、CLOSE は間隔を狭める意である。NEAR も挙げておこう。これで、やっと、関係を認識することになる。両者が同方向に向かって進んでいるのなら、マラソン競技を連想させる。

リレー競技の様であれば、一方が委ねる CONSIGN と、他方が中継ぎする RELAY が適用される。取って代わる REPLACE は単なる後続の意が強く、代理するのは SUB で、一般的に、取って代わるのは DISPLACE, SUBSTITUTE である。SUPERSEDE は改善を暗示し、SUPPLANT は策略によるか。後を継ぐ SUCCEED は、FOLLOW, ENSUE の様に、単に、順序としての場合もあり得る。

以上を含めて、様々な状況での出合いを考えると、まずは、お互いに影響しあうだろう。INFLUENCE が適用されるが、具体的には AFFECT で、OPERATE も加えられ得るか⁽¹¹⁾。INTERACT は相互性を強調する⁽¹²⁾。そして、

引き合うのは ATTRACT, 反発するのは REPEL である。

刺激に反応するのは REACT であるが、ここでは、より接近することだけを考えれば良いか⁽⁴⁾。でも、何らかの理由で逸れたとしよう。方向を変えるのは VEER, それも急に、は SWERVE である。軌道に逸れる、それも本題からなら STRAY, DIGRESS で、正常からだと DEVIATE, それも、墮落するのは LAPSE であろう。単なる分岐は DIVERGE, 光に関しては、既述した通り DEFLECT である。

結果として避けることになり、傍らを通り過ぎることになるか。しかし、それが、掠めたり、擦ることになると、軋る可能性も出て来る。ついでながら、ときには、あること、引掛かる HITCH, HOOK を挙げておこう。

そんなで、まともに衝突する可能性もある。ぶつかるのは STRIKE, HIT, KNOCK であるが、激突するのは COLLIDE で、CRASH は大音響を暗示し、CANNON は大砲の様にてある。HURTLE は激しい勢いと音を強調し、不一致の意も持ち、押し合うことも暗示するか。

一方、穏やかに接近して出合うのは、広い意を持つ MEET を挙げておこう。ENCOUNTER は出くわした上、立ち向かう意も持つ。随伴するのは ACCOMPANY で、必然的に伴うのは ENTAIL である。後ろから、付いて行く、付き纏う、更には、取り付くことも考えられ得るか。妄想などが取り付くのは SPOOK, HAUNT, POSSESS である。

接する、ということになると、既述した『存在』での展開につながって行く。見方によっては、重なる (OVER-)LAP, あるいは並ぶ、ことにもなる。多数だと、集まる、群がる、で、物によっては、覆う、閉む、包む、更には、満たす、満ちる、塞ぐ、等であろうか。

接する、にしても、噛み合うことになると歯車を連想させるか。文字通りの GEAR が適用されるが、網の目を連想させる MESH も適用される。BITE は歯を、LOCK は錠あるいは鍵を連想させる。ENGAGE も挙げておこう。密着度を強調すれば、土などが、固まる様には COHERE, 固着するのは ADHERE, 更に、一般的に、くっつくのは STICK か。ついでながら、癒着するのは、COALESCE で、つながることになる。

くっついても CLING は、むしろ、張り付く、纏い付く、であろう。既出の WREATHE は、絡み付くか。ついでながら、ここに、巻き込む INVOLVE, EMBROIL, ENTANGLE を挙げておこう。結果として、纏れることになり、

結び目の如く KNOT, ドアマットの如く MAT, 更に SNARI, TANGLE が加えられ得る。

これらは対象が異なると、「混ざる」ことにはならないだろうか。ここでは ADMIX, COMMINGLE を挙げておこう。その結果, 「ごたまぜ」になるのは JUMBLE で, 既出の群がる HUDDLE につながって行く。更に, 液体や気体ならば, 浸透・拡散することにまでならないだろうか。

《意味》既に, いくつかの位置関係に, 意味関係を見い出せるが, 先行する物は前兆となる可能性が大きい⁽⁴⁴⁾。古い, 印, 合図を連想させる AUGUR, BETOKEN, SIGNAL が適用される。意味内容に即して, 文語的な ADUMBRATE, PORTEND, PRESAGE も挙げておこう。FOREBODE は大凡, 凶事を, 更に, 広く, FORECAST, -TELL, -SHADOW も加えられ得る。

sign は signal よりも広い意を持つ様に, SIGNIFY は前兆だけでなく, より多くの意味を明示する。EXPRESS は前兆の他, 象徴であることも教示する。象徴するのは SYMBOLIZE, REPRESENT である。象徴でなく, 特徴を示すのが CHARACTERIZE で, MARK, TYPIFY は両意を持つか。更に, 典型であるということでは INCARNATE も挙げておこう。

言葉に関しては MEAN が教えてくれるが, 記号などを含めては DESIGNATE で, 特に単語に関して, 文字通りの意味を示すのが DENOTE で, CONNOTE はそれ以外の, 含まれる意を教える⁽⁴⁵⁾。

文字や文や文章に関して, 書いてあると教えるのは READ で, 比喩的に, 言っていると SAY, TELL も適用され, こう続く, 行くと GO, RUN が加わる。SPEAK も加えられ得るが, より広く, 徴候を教える INDICATE, 含まれる意を教える IMPLY, 証拠を示す TESTIFY, EVIDENCE などの意も物語る。スペルは綴られた結果のこと, そこで SPELL は結果になる意を持つ。ついでながら, これは, 分量に関して, AMOUNT にも当てはまる。

そして, その数値を示すのが RECORD で, GIVE も挙げておこう。体重は WEIGH, SCALE, その他の度量衡は MEASURE であるが, 高さは STAND でもある。総計では TOTAL, AGGREGATE を挙げておこう。数値では表わせない価値は DESERVE, MERIT である。どんな目鼻だちか, 数に数えられるのかどうか, どんな事か, どんな重さか, は, それだけで重要なこと, そこで, FEATURE, COUNT, MATTER, 更に, 今, 記したばかりの WEIGH は, それだけでも, その意を持つ。更に SUFFICE も同様, 十分かどうか, の尺度

が適用され、既出の ABOUND につながって行く。

一方、欠けているのは LACK, FAIL であり、だから、欲する意まで持つのが WANT である。必要であるのは NEED, NECESSITATE, だから、要求する意まで持つのが REQUIRE, DEMAND である。EXACT も挙げておこう。ついでながら、欠けた所を補い合うのは COMPLEMENT である。

意味や価値だけではないが、一般的に、持つのは HAVE で、ときに、含むとはいえないだろうか。全体として、含むのは CONTAIN である。COMPRISE も加えられ得るが、含まれる各々からすれば、全体を構成する COMPOSE, CONSTITUTE の意を持つことになる。そこで、それらの要素から成ることを強調すれば CONSIST である。一方、部分として、含むのは INCLUDE で、特に、包摂するのは SUBSUME である。含まれた方からすれば、属する BELONG, PERTAIN ということになる。

持っている、あるいは持つことが、ふさわしいとか、(似)合うのは BECOME, SUIT, FIT である。そして、調和して、釣り合う意の BALANCE は天秤を、HARMONIZE, CHIME は音楽を、COORDINATE は筋肉相互の動きを連想させる。SQUARE は直角に交わるが如く、ASSORT は上手く分類するが故に、調和するということか。更に、一致するのは ACCORD, CORRESPOND, CONSORT である。AGREE は意見の一致だけでなく、適合する意も持つ。適合するのは APPLY, CONFORM であろうか。

これらの意を持つにつけても、匹敵する、負けない、という意を強調するのが MATCH, RIVAL である。また、等しいことで匹敵することを強調するのは EQUAL である。比較する COMPARE も、匹敵する意を持ち、その真意が、ここで明示されることになる。

他方、合わない、一致しないのは DISAGREE で、矛盾する程にまでなると CONTRADICT, 更に、既述した衝突する程に、相容れないのは CONFLICT である。ところで、CONTRAST は対照をなす意である。

その他、起源に関して、持っているのが、派生する DERIVE, 茎を連想させる STEM, 逆戻れるということでは TRACE, それも、日付に関しては DATE である。これらは、今迄の記述内容とは、異質の感があるが、関連があり、結果になる、持つ、と対立する、と言えないこともない。関連する、関係するのは RELATE, CONCERN, CORRELATE であるが、以上、どの道、相互に異なっている DIFFER であり、類似する RESEMBLE であっても、厳密には、

異なる VARY ということなのではある。

ま と め

時間を知覚することは稀である。それでも、恐らく比喩的に、傍らを過ぎるが如く PASS, そして GO, 更に ELAPSE が挙げられる。その速さ故に、FLY, RUN, ROLL, MARCH も適用される。知らぬ間には CREEP, GLIDE, SLIDE, SLIP で、一方、のろのろと、ゆっくりは CRAWL, WEAR である。ついでながら、夜が更けるのは ADVANCE で、また、時間を対象に KEEP, KILL が適用されもする¹⁶⁾。

そして、ある時点でのこと、物が現われ、見えて来るのが APPEAR, 隠れていたことを暗示するのが EMERGE, 表面に出るのは SURFACE で、SHOW は顔を見せることか。LOOM はぼんやり大きく、PEER は微かに、PEEP は隠れながらである。そして、事が起こる。偶然性を暗示するのが HAPPEN で、それも好運は、CHANCE である。OCCUR は物が現われる意も持つ。むしろ良くない事が降り懸かるのは BEFALL, BETIDE で、より広く、思わぬ事が起きるのは SUPERVENE である。

更に、その順序が問題となり、先行するのは PRECEDE で、ANTEDATE は、その日付を強調する。先触れするのは HERALD, 先んじるのは ANTICIPATE である。同時に起きれば、意見の一致も意味する CONCUR, COINCIDE で、更に、文字通りの SYNCHRONIZE も挙げておこう。後に続くのは、既述した SUCCEED, FOLLOW, ENSUE である。

大凡、変化が起きるのであるが、状態が変わるのは CHANGE, TURN で、ときには BE でも置換え可能なのが GET, BECOME, GROW であろう。むしろ好ましくない状態になるのが GO, 更に、陥る意の FAIL で、好ましいのが COME である。結局なるのが MAKE, 至るのが LEAD, 結果になるのは RESULT, EVENTUATE であろうか。急変する、それも好ましくない状態には RUN で、荒々しくは FLING で、更に、FLY も挙げておこう。

一方、単に、ある状態であるのは BE, STAND, LIE であるが、持続すると共に、その状態のままではいるのは REMAIN, CONTINUE で、良い状態で、もつ意も持っているのが KEEP, STAY である。持続して、もつのは HOLD, ENDURE, WEAR, LAST で、依然として残るのが SUBSIST, SURVIVE で

あろうか。

《注》

- (1) 名詞群分析の意義は、今、述べたばかり、「自然とその現象にかかわる名詞群分析」と本稿、特に前半と比較されたい。
- (2) 他動詞に、且つ、自動詞に、同一表現が機能することがあるが、そうでない場合も含め、その関係と意義を考えたい。
- (3) 聴覚に関しては、「音を連想させる英語動詞群の意味分析」を見られたい。ついでながら、本稿は、前掲の「動くことを」と「動かすこと及び物理的变化を」に加え、「液体及び気体から連想される英語動詞群の意味分析」とは一部、交差しており、その都度、指摘はしないが、重複しない様に心掛けた。
- (4) 線的、面的、立体的拡大に関しては、『はじめに』記した「五感他の」の『表情』の《筋肉》を見られたい。この後、覆う、として具体的に言及する。
- (5) ついでながら、風景に関して COMMAND は、見渡す意、OPEN は、広々と見渡せる意である。
- (6) 擬人化、あるいは比喩と言って良いのであろうが、認識的には、よくあること、本稿でも、その他、多く見出しせる。
- (7) 流動体、つまり、液体や気体に関する言及が多いので《無形》として、《有形》と対立する。当然、注(3)の「液体及び気体から」が流動体には詳しい。
- (8) 注(3)のうち「液体及び気体から」と「動かすことと物理的变化を」に、特に、重複する部分が多い。
- (9) 語形は、形容詞そのもの、あるいは近いものが多く、認識的にも形容詞の方が優越する程に、意味分析は困難を極める。
- (10) 言うまでもなく、どちらかが動いていなければ、話は展開しない。そして、注(3)を再び参照されたい。
- (11) 例えば、「精神的変化を連想させる英語他動詞群の意味分析」「精神的変化だけでなく物理的・行動的变化を連想させる一連の英語他動詞群分析」を見られたい。
- (12) 接頭辞 INTER-を持つ表現は、他にも多く存在しており、ここに関わるか。
- (13) 例えば、「好意的及び非好意的関係・反応を連想させる英語動詞群の意味分析」「好意的及び非好意的だけでなく精神的・行動的反應や態度を連想させる英語動詞群分析」を参照されたい。
- (14) 冒頭に掲げた「KNOW 及び THINK に集束する」の『思考』の《実践》での、予言する、予報する、と語形が、ときに、同じであっても意味が異なる。
- (15) ついでながら、言語に関しては「SPEAK と TALK を代表とする意味場の分析」「発声・発音・発話に代表される言語行動にかかわる一連の英語動詞群分析」を見られたい。
- (16) ついでながら、時計が進むのは GAIN、遅れるのは LOSE である。